

Azalea

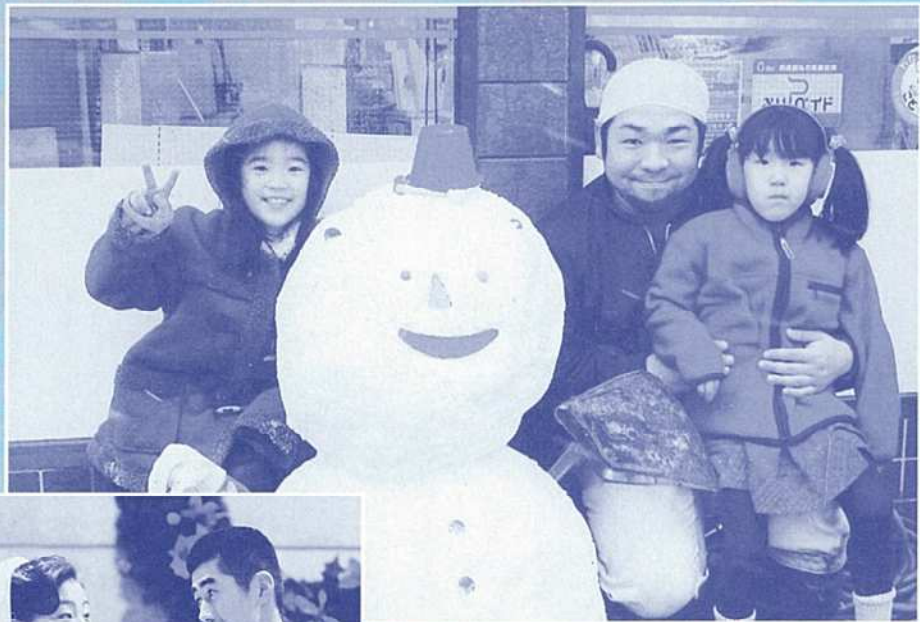
2001.2.26

NO.25

特集

座談会

男女共同参画ってなに？



北区女性センター「アゼリアプラネット」利用のご案内

男女共同参画の推進と女性問題に関する学習及び女性相互の交流の機会と場を提供するために設置された施設です。

施設の内容

- ◎学習室・料理室・和室（有料）
男女共同参画を推進することを目的とした団体が利用できます。（団体登録の要件有）
- ◎交流コーナー（無料）
情報交換や出会いの場として気軽に利用できます。
- ◎ワーキングルーム
登録団体が利用できます。
- ◎情報コーナー
女性問題に関する図書・行政資料・雑誌・ビデオなどの閲覧、貸出を行います。

◇利用の申込み……利用日の2ヵ月前の日の属する月の初日から利用日の前日までに使用申請書を提出し使用料を納付してください。
※受付開始日の申込みは、午前9時30分までに来館してください。（以降は随時受け付け）。

問い合わせ先……TEL (03) 3913-0161・0162
FAX (03) 3913-0081



男女共同参画ってなに？



出席者

- ◆下村美恵子さん (コーディネーター) <足立区女性総合センター社会教育指導員>
- ◆田辺恵一郎さん <王子在勤 東京鋼鉄業社長>
- ◆豊原きよみさん <上十条在住 子供支援グループ代表>
- ◆中村昭博さん <西が丘在住 アゼリア編集委員>
- ◆長谷川久美さん <十条仲原在住>

国の基本法、都の条例を受け、北区でもアゼリアプラン推進区民会議では女性行動計画の改訂を論議しています。男女の生き方が多様化してきた今、協力しあえるパートナーシップを築いていくには何が必要なのでしょう。

画、家庭や職場における制度、日頃「ヘンだな？」と感じていることなどを、プランクに話し合う座談会を催しました。コーディネーターの下村美恵子さんを中心に、男性・女性、既婚・独身と異なる立場の男女4人が集まり、熱き舌戦を繰り広げていただきました。

生活レベルでの男女共同参画とは

下村：男女共同参画という言葉を目にした時、耳にしたりしたことはありますか？

長谷川：私はまるっきり初めてでして、男女一緒に何かをすることなのでしょう。今回お誘いを受けましたので、この際わからないことはお聞きして、学んで帰ろうかなと思っております。

豊原：家庭や職場あるいは地域で男女が対等に行動できることではないでしょうか。社会を構成している人々を性別で考えず、平等に尊重しあって、家庭、職場、地域を構成していくということなのでは。

田辺：会社などで人を採用する時、性別で採ることではなく、職種で募集すること。過去には女性蔑視の傾向が見られましたが、これからは差別のない社会を創っていくことですか。

下村：昨年には改正均等法と男女共同参画社会基本法が施行されました。社会の動きがわずかながら出てきたのですが、まだまだ不都合なことが多いような気がするのですが……。

長谷川：子どもがサッカークラブに入ったのですが、その世話役のことで少々トラブルがありました。些細なことですが、「お茶汲み」の件なんです。若いお父さんと年輩のお父さんとの考え方に微妙な差があり、年輩のお父さんは「お茶汲み」はお母さん方にしてほしいとの要望なんです。日常的なところでも差別があるような気がします。

下村：これは面白い話ですね(笑)。長谷川さんのお話の中に大きな提案が含まれていると思います。

中村：そうですね。昔は男は外、女は家庭と極めて慣習的だったと思うのです。世代が若くなるとそういう感覚が薄れて、友達のような間柄になる。男女とも「お茶汲み」は女性という概念でとらえず、誰がやってもいい、というふうに入れているのでは？

もいい、というふうに入れているのではないのでしょうか。

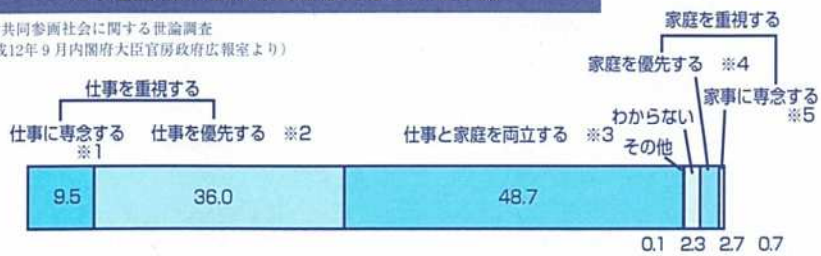
下村：地域では摩擦を起こさないように「マア、しょうがないか」と諦めてしまうことが多いですね。今の「お茶汲み」問題は職場でも問題になることですが、他の方はいかがですか。

男女が平等に生きていくためには

豊原：教育の現場でも男女共同参画プログラムがあまり実践されていない

仕事と家庭における男性の望ましい生き方

男女共同参画社会に関する世論調査 (平成12年9月内閣府大臣官房政府広報室より)



- ※1 家事や地域活動は妻に任せ、仕事に専念する
- ※2 家庭や地域活動を尊重するが、あくまでも仕事を優先させる
- ※3 家事や地域活動に妻とともに参加し、仕事と両立させる
- ※4 どちらかといえば、仕事よりも、家庭や地域活動を優先させる
- ※5 仕事は妻に任せ、家事や地域活動に専念する

いように思います。我が家で、仮に夫が家庭に入って私が働くとする、収入が半分以下になってしまう。ですからやはり男性のほうが働くわけです。もっと社会のシステムを変えていかないと。

下村：では、男女共同参画プログラムが実施されれば社会は変えられるでしょうか。

豊原：20代の若いカップルを見ていると、女性のほうが得をしているんじゃないかな、と強く感じます。若い男性がマスコミなどに煽られてどんどん変わり、折れているんじゃないかしら。

下村：内閣府が発表した世論調査が

男性の家庭への関わり方



男女共同参画社会に関する世論調査 (平成12年9月内閣府大臣官房政府広報室より)



下村 美恵子さん

下村：仕事を持つ女性は確実に増えています。でも同時に介護・育児の7割以上が女性の手に委ねられてい

田辺：強いて言えば、間違いなく男女共同参画の方向に向っています。機械化が進み作業が楽になり、今まで男性ばかりだった職場にも女性が進出してきました。情報労働には女性の感性が必要とされる部分も多いんです。企業は女性を活用していかねばならない時代になってきたと思うのですが。

下村：辛いですよ(笑)。

新聞各紙に載ったのですが、男性にシフトした内容になっていきますね。例えば見出しに「男性仕事中心や減少」、「育児やっぱ取りにくい」などと、男性にメッセージを送らなるとダメ、とだんだん風向きが変わってきました。

中村：確かに仕事と家庭の両立って難しいです。お互いに話し合っていないかなければうまくやっっていけない。せつかくの休日やゆとり、と思っても家事に協力しなければならぬのはウーン……。

下村：長谷川さん怒っています(笑)。家事労働を金銭換算すると、年収平均276万円程度に相当するそうです。でも、実際には無償労働です。男性の有償労働もこれがないと成り立たないのが実情です。若い方は柔軟性があるので期待できそうですが、中高年の方はどうでしょうか。

田辺：異論があります。年齢によって価値観が違うと思うんです。例えば私の母の場合、家事・育児で充分満足していません。その価値観を否定してはいけないと思うんです。だから年配の方のほうに「頭が固い」と決めつけてはいけないのではないのでしょうか。

下村：そのお話とてもいいですね。若い方々は流動的に新しい生き方をなさっている。年配の方の中でも、社会の変化を受入れつつ変われる方



中村 昭博さん

職場や地域で制度を活かしていくには

がいる。どの年代も「受け入れる」という可能性を秘めているからこそ、期待できるんです。

豊原：年齢が高くなればなるほど情報操作されていて、結婚・育児・介護で幸せだと信じていた人たちと、そんな中でも女性運動などをしていた方があります。無理に法律や制度を作って決めなくても、子どもの頃からさまざまな情報から自分の生き方を選択できる教育をしていけばベストなんですけれど。

中村：僕はファミリーレストランで仕事をしているのですが、パートの方が大勢います。65歳くらいの方でもバリバリ働いています。サービス業などではそういう年齢でも働ける場を提供できるのですが、労働量や収入が増やせないというのには、自分の意志でなく制度的な問題が引っかけたてくるんです。

豊原：本来パートという職業は男女差別の表れのような気がします。今



勤務先にのぞむこと



育児・子育てと就労に関する意識・実態調査
(平成12年3月東京都王子労働政務所より)



田辺 恵一郎さん

の制度では年収が103万円以上だと扶養家族から外されると言われます。でも個人が生きていくには100万円では無理。個々で収入を上げて自力で生きられればいいのですが、やはり男性の収入に頼らざるを得ない。もう既に主従関係ができてしまつて。

田辺…戦後間もない頃は女性が働くのは珍しかった。今は勤め続けようという意識が高いので、機会均等は必要でしょうね。

豊原…話は変わりますが、女性の国会議員数を見ると、平等の門はまだ開かれていないと思うのです。平等へというのなら、大臣の数も男女半々でいいわけですよ。

下村…今は母子家庭、父子家庭あり、シングルありと家族もさまざまです。大人が子どもたちのモデルにならないとね。学校教育も「男女平等」をカリキュラムとして盛り込んだり、教師たちが良いモデルになることも大切です。いずれにしても、個人からアクションを起こしていくことが男女共同参画の基本だと思うのです。



長谷川 久美さん

長谷川…既存のやり方を守るほうが楽ということではなく、新しい方法も取り入れてほしいですね。

下村…自らの行動を裏付けるための理論や知識を得る、大人としての学びも大切です。

中村…子どもには学校教育が、大人にはセミナーなどでの学びの機会があると思います。でも、民主主義だと言つて多数派の意見ばかりが通り、少数意見がなかなか受け入れられないのが現状です。

下村…民主主義は多数決が原則です。

田辺…例えば北区でも女性議員数を半分にすればいいわけですよ。女性が立候補するのを男性が応援すればいいんですよ。つまり、地域が変われば国も変わる。まだ法律も不十分ではあるが大きな方向性も出てきています。だからこそみんなで変えていけばいい。職場や社会が女性の考えを絶対必要としていますよ。

豊原…知り合いの女性区議を見てみると、子育てしながらの活動は、やはり女性の方の負担が大きいです。ものすごい負担を抱えて、強じん

が、少数意見をどう受け入れるかが問われるところですよ。

豊原…子どもにも社会の構成員という意識を持たせる必要があると思います。男女の役割を固定的に描いているテレビ番組などがあつても、「これは違うんじゃない？」と意見や苦情を言うのにはなかなか勇気がいります。

下村…新聞のコラムにも読者の意見が載っていますね。メディアでは1通が40〜50万人ないし、100万人の意見だと受けとめています。ですから「おかしいな」と思つたら、そういう小さなことから発信を始めてみるのはいかがでしょうか。

田辺…僕らはできるだけ自由なほうがいいと思うし、子どもには善悪を自分で判断できる能力を養ってもらいたい。年齢や性別を越えて、また北区でも「アゼリアプラン」を推進していくには、もう一度原点に戻って賛同者を増やすことを考えないといけない。賛同者が増えないと社会は変わらないと思うのですが。

下村…地域の特性を知っているみなさんからも行動を起こしてもらいたいですね。そろそろまとめに入りたいのですが、
①職場や地域で支え合い、コミュニティ再生の場としての北区を創っていく

体力を持ち、立たねばならない。

田辺…議員になるには家族の同意を得て立候補すべきだし、子育てのサポートは社会が必要としているのだから、それを改善していけばいいことなんじゃないかなあ。

豊原…そのとおりなのですが、でも女性議員が帰宅して「オイ、飯」といっても出てこないですよ(笑)。制度を変えて、差別のない社会を創ることが男女共同参画だと思うんです。子育てつても大切な仕事ですよ。大事なことを手抜きしないで男女ともに関わっていければいいのですが。

田辺…大賛成です。今は子育てもこうあるべき、と決められていて選択肢がないんです。どのように子どもと関わるかも選択できる社会を創っていけばいいわけですよ。

長谷川…今の母親は手間の掛かることを嫌う傾向にありますね。私は小学校に入るまでは子どものそばにいたい。仕事にはその後取り組みたいんです。

豊原…個々人が意見を交換できる社会であつてほしいですね。

下村…いろいろな人が手を結び合うにはどうすればいいでしょうか。現代は

②区政や国政の中で活動する男女を半々にしていく

という中でこれから望むことなのですよ、北区の働く男女からこんな話が出ています。仕事と家庭の両立が難しい。

長谷川…男女平等だけでなく、人間として良くなるのであれば意見述べるのが大切なんだ、と今日つくづく感じました。

中村…これからは女性の感性が大事で、市場においても女性の感覚を取り入れた商品が開発されています。女性の活躍ぶりを見て、男性の意識も変わっていくのではないのでしょうか。

田辺…まずは機会均等の社会を創つ

男女が同じ土俵に立って向き合っているのかどうか。立場の違う人が排除されたり分断されたりしないようにしなければならぬでしょう。

豊原…何にしても「誰かがやってくれば」という気持ちの人が多くですね。

下村…もしかしたら自分の無関心が「何か」に負担しているのかもしれない、という恐さもありますよ。

中村…制度を活かすのもただの飾りにしてしまうのも、結局は個人の考え方や行動によって決まると思っています。

自ら発信して、希望につなげよう

下村…個人から出発して地域へと進めていくことはいいことですね。

豊原…高齢になつても生涯現役だという意識を持ち、動けるうちは働いて意見を求められたらそれに答える。たまにはグループ活動にも参加して、柔軟な生き方ができるといい。

子どもの時代から「権利と義務」をきちんと教えておかないと、楽か否かで物事を判断するようになっていくこと。そしてこれからは女性の意見を取り入れていかないと社会が成り立たなくなってしまう。

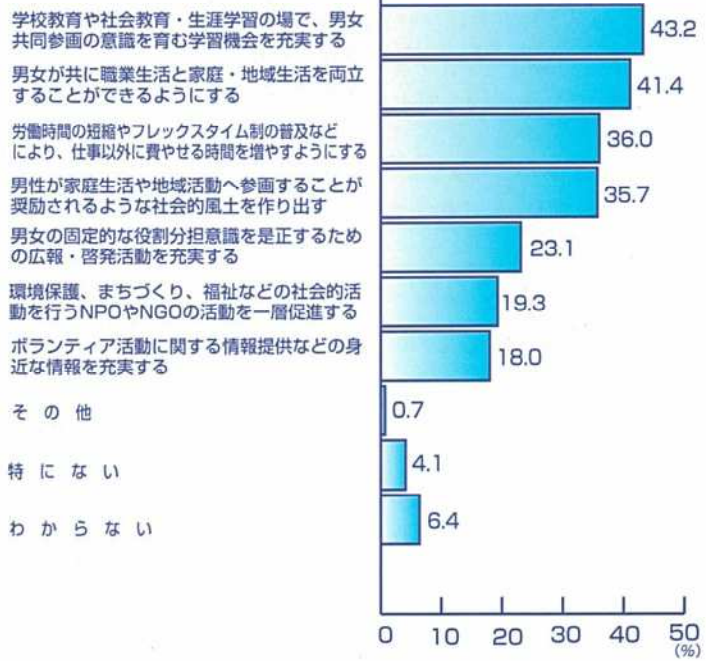


豊原 きよみさん

豊原…大人たちが良いネットワークを広げ、子どもが生き生きと暮らせる地域を創っていききたいですね。

下村…機会・条件・結果が揃つて初めて本当に平等であるといえます。私たち大人が「悪しきモデル」とならないように、これは変だと思つたら意見をどんどん言つて自ら発信し、積極的に行動していく。希望と可能性を捨てないで、ガンバッテいきましようね。今日はみなさんの活発なご意見を聞かせていただきありがとうございました。

行政に対する要望



男女共同参画社会に関する世論調査
(平成12年9月内閣府大臣官房政府広報室より)

※北区女性行動計画のこと

ストーカー規制法が施行

交際を迫ってつきまとったり、嫌がらせを繰り返したり、近年殺人事件にまで発展しているストーカー行為を取り締まる「ストーカー規制法」が昨年11月24日に施行されました。この法律では、規制の対象は、「特定の者に対する怨恨感情、またそれを満たされなかったことに対する怨恨感情を充足する目的」と恋愛関係に限定しています。企業のリストラなどに起因する怨恨は規制の対象外です。

ストーカー行為とは、

- つきまといや待ち伏せ・押し掛け
 - 行動を監視していると告げること
 - 面会・交際の要求
 - 乱暴な言動
 - 無言電話、連続した電話・FAX
 - 汚物、動物の死体などの送付
 - 名誉を傷つける
 - 性的いやがらせ
- などの行為が反復して行われた場合をいいます。

このような被害を受けたことのある女性は13.6%、男性は4.8%で、被害者は圧倒的に女性が多くなっています。

規制法では、被害者からストーカー行為があった場合、申し出があれば警察が相手に警告を発することができ、従わない場合は「聴聞」を行った末、公安委員会の禁止命令も盛り込まれています。

罰則としては、6ヵ月以下の懲役または50万円以下の罰金（禁止命令に違反した者は、1年以下の懲役または100万円以下の罰金）が科せられます。

被害にあった場合は、できるだけ早く地元の警察署に相談して下さい。

☆困った時の相談電話番号

全国共通#9110(シャープきゅういちいちまる)

※公衆電話や携帯電話、PHSからも電話をかけた地域を管轄する警察本部の総合相談窓口につながります。

書籍紹介『共生の法律学』

「みんなと一緒に生きながら、それぞれが異なって生きる。これは人が社会性とアイデンティティーをはぐくむための最低条件である」。



今回の「アゼリア」の座談会の中でも出てきた大きなテーマである。

筆者は法律という側面からこの大テーマに取り組んできた。

共生の法律学
大谷 恭子著
有斐閣選書 1800円＋税

「共に生きる」ことは難しい。「人権」に対して豊かな感性をもてない日本人は、社会のあらゆる局面で差別を差別と気づかず、その状況にも鈍感でさえいる。「差別」や「人権」などということは、自分にとってはあまり身近なことではない、と思う人は多いであろう。「ところが、良く考えてみるとあなたの周りにも、ほら」と筆者は訴えかけてくる。ひとつひとつの事例が「現実」との格闘の歴史であり、筆者の思いの具現化のプロセスでもある。熱き思いの筆者は北区の住民として、「アゼリアプラン」にも大きな望みをかけ、たたかっているのだ。（編集委員 厚美 薫）

Azalea No. 25

刊行物登録番号
12-2-010
(2月号)

平成13年2月26日発行

発行/東京都北区総務部
男女共同参画室
〒114-8508
北区王子本町1-15-22
TEL 03-3908-9307
FAX 03-3908-1803

企画・編集/アゼリア編集委員会
区民編集委員
青木伸子
厚美薫
中村昭博
本田りえ
写 真/小田原淑子
協 力/株式会社 タクト・ワン

編集後記

子供の頃は夢だったケータイもエアコンもあつという間に拡まり、社会の変化の速さには目をみはるものがあります。

21世紀最初の「アゼリア」では社大で永遠のテーマ・男女共同参画・について座談会を特集しました。あなたは男女平等についてどのような考えをお持ちでしょうか。

かつて憧れた未来に生きていることに感謝しつつ、今日より明日への社会の変化に期待を持って生きていきたいと思えます。（ほんだりえ）